

経営戦略論		講義	教授 丸山 高行
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択 必修科目、経営・経済コー スの専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	23102201 25320223

1. 授業のねらい・概要

経営戦略の立案から実行、評価まで、経営戦略に関する知識が論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、ゲーム理論や代表的な経営戦略の知識をベースとして、競争環境や企業の規模・歴史によって企業の経営戦略がどのように変化するかについて、実例を交えて解説する。

2. 授業の進め方

基本的には、配布資料や参考文献等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。また、毎回、授業の開始時に、その日の授業で学習する内容に関して2問程度練習問題を提示し、集中して考える時間を設ける。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 経営戦略の実行と振り返り
2. 現代企業の経営戦略（経営理念の重要性）	10. 財務戦略①（財務戦略の基本パターン）
3. 経営目標の立て方	11. 財務戦略②（MM理論のエッセンス）
4. 経営戦略の立案と調整	12. 資本コスト概念の重要性
5. 企業間競争の原理	13. 企業規模と経営戦略
6. ゲーム理論の基礎①（戦略型ゲームと展開型ゲーム）	14. 企業の歴史と経営戦略
7. ゲーム理論の基礎②（最適応答とナッシュ均衡）	15. 全体のまとめ（コーポレート・ガバナンスとリスク管理）
8. 全社戦略、事業戦略、機能戦略	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業終了後、授業中に提示された練習問題を中心に、授業の内容を自分なりに整理してまとめておくこと。こうした復習のための準備学修には、最低1時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験終了後、各自に模範解答を配布するので、解答が不十分だったところは直ちに復習しておくこと。

6. 授業における学修の到達目標

経営戦略論の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、現実の企業の経営戦略や株価の動きなど、ホットな話題にも適宜触れるので、関心のある業界や企業について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（20%）および定期試験の結果（80%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは使用しないが、授業の進捗に合わせて、適宜参考文献を紹介する。

9. 受講上の留意事項

基本的に経営学基礎で学んだ知識を前提に授業を進めるので、しっかり復習しておくこと。また、経営組織論と経営

戦略論は会社経営の両輪となるので、できればセットで受講することが望ましい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。